

リハビリ補助器具のレンタル試行

中国民政部・発展改革委員会・財政部・障害者連合会は6月27日、「リハビリ補助器具（以下・補助器具）の社区レンタルサービス試行拠点地区の確定に関する通知」を発表しました。

2021年度末までに全国の社区における補助器具レンタルサービス体系の確立を目指してお



▶今後は器具に詳しい専門職が求められる

り、北京市石景山区、広東省広州市、吉林省吉林市、四川省成都市、上海市等の全13地区で実施されることになりました。

これを受けて上海市では、今年度末までに全区の約30%を占める65カ所の町村で、来年度には40%の町村で、21年度には全町村で実施することを目標としています。

この制度では補助金支給も予定されています。対象は市に戸籍を持つ60歳以上の高齢者および60歳以下の障害者。支給額は未定ですが、今年度は400万円、来年度は600万円と2年間で1、000万円の予算が確保されています。

21年度末までにサービス拡充

補助器具は一日でも早く自立、もしくは自立サポート出来る事を目的としています。介助する側とされる側の負担を軽減してくれることも大きなメリットの一つです。

しかし、現地で福祉用具研修を行うと、器具に関する理解や知識が浅く、正しい方法が使われてないと感じます。また、器具の種類は日本のように豊富ではない。例えば、専門知識を備えたスタッフが少ないため、補助器具を利用することでリスクが高まってしま

ることが懸念されます。現在は無許可のレンタルサービス業者が多数存在していますが、全国で政府公認の事業所が設立されていくことにより、今後レンタルサービスの利用機運が高まり、さらには正しい使用方法をレクチャーできる専門業者が増えることを願います。

中国の高齢者マーケット

～介護・不動産事業の行方～



ゲストハウス総経理
稲田義人

著者プロフィール
ゲストハウス総経理。中国事業に携わって7年、介護職員養成学校の立ち上げや日本式介護研修の実施、また、日系介護企業を集めての上海シニア産業フェアの主催等、上海シニア事業全てを総指揮。